

TAKE NINAGAWA

バイオグラフィ

大竹伸朗

Shinro Ohtake

1955年東京生まれ

1980 武蔵野美術大学 造形学部油絵学科卒業

主な個展

- 2016 「Shinro Ohtake: Paper - Sight」, シンガポール・タイラー・プリント・インスティテュート (STPI), シンガポール
「時憶」, Take Ninagawa, 東京
「SHOW-CASE project No. 3」, 慶應義塾大学 三田キャンパス, 東京
- 2014 「大竹伸朗」, パラソルユニット現代美術財団, ロンドン
「既憶景」, (主催 公益財団法人福武財団), 宮浦ギャラリー六区, 直島, 香川
- 2013 「'00 - '12」, Take Ninagawa, 東京
「大竹伸朗: 憶速」, 高松市美術館, 香川
「大竹伸朗展: ニューニュー」, 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 香川
「焼憶展」, INAXライブミュージアム 世界のタイル博物館, 愛知
- 2012 「大竹伸朗」, アートソングェ・センター, ソウル
- 2011 「大竹伸朗展」, 佐賀町アーカイブ, 東京
- 2010 「#65 | 2005 - 2010」, Take Ninagawa, 東京
「#65」, Take Ninagawa, 東京
- 2009 「貼貼貼貼/Shell & Occupy 4」, Take Ninagawa, 東京
- 2008 「貼貼貼/Shell & Occupy 3」, Take Ninagawa, 東京
「貼貼/Shell & Occupy 2」, Take Ninagawa, 東京
「貼/Shell & Occupy」, Take Ninagawa, 東京
- 2007 「大竹伸朗と別海 2007年」, ウルリー牧場, 北海道
「大竹伸朗 路上のニュー宇宙」, 広島市現代美術館(広島), 福岡市美術館(福岡)- 2007
- 2006 「大竹伸朗と別海」, ウルリー牧場, 北海道
「大竹伸朗 全景1955-2006」, 東京都現代美術館, 東京
- 2004 「UK77 写真、絵、貼1977-78年」, ベイスギャラリー, 東京
- 2002 「Man Is Basically Good 大竹伸朗個展1982-2000」, ベネッセハウス直島コンテンポラリーアート
ミュージアム, 香川
- 2001 「大竹伸朗デジタル・ワークス 鼠景」, エプソン・イメージング・ギャラリー, 東京
- 2000 「ダブ景 大竹伸朗」, KPOキリンプラザ, 大阪
「大竹伸朗展」, ベイスギャラリー, 東京
- 1999 「ZYARAIORAMA 大竹伸朗展」, パルコギャラリー, 東京
- 1998 「新津-あいまいで私が日本 大竹伸朗展」, 新津市美術館, 新潟
- 1997 「大竹伸朗 プリンティング/ペインティング」, CCGA現代グラフィックアートセンター, 福島
- 1994 「大竹伸朗の新作版画展 カスバの男 モロッコ日記」, 西武アート・フォーラム, 東京

TAKE NINAGAWA

- 1993 「大竹伸朗 網膜」, ギャラリー・ところ, 東京
1991 「大竹伸朗の仕事 ECHOS 55-91」, 西武アート・フォーラム(東京), なんばCITYホール(大阪) - 1991
1990 「大竹伸朗 Shipyard Works 1990」, 寺田倉庫Space T33, 東京
1988 「キャンヴァンズム-夢と細胞 大竹伸朗新作展」, 西武アート・フォーラム, 東京
1987 「大竹伸朗展 1984-1987」, 佐賀町エキジビット・スペース, 東京
1986 「ロンドン/ホンコン 1980」, ヒルサイド・ギャラリー, 東京
1985 「大竹伸朗-放浪する言語/未来の日本前衛」, パラッツォ・ビアンコ, ジェノヴァ
「大竹伸朗ペインティング/コラージュ」, インスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アート(ICA),
ロンドン
1984 「大竹伸朗 1983-1984」, ギャラリー・ワタリ, 東京
1982 「大竹伸朗 個展」, ギャラリー・ワタリ, 東京

主なグループ展

- 2018 「開館40周年記念展 トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」, 国立国際美術館, 大阪
2017 「In Focus: Contemporary Japan」, ミネアポリス美術館, ミネアポリス
「日本の絵本100年の歩み」, ちひろ美術館, 東京
「Japanorama: New Vision on Art since 1970」, ポンピドゥー・センター・メッス
(curated by 長谷川祐子)
2016 「谷川俊太郎展・本当の事を云おうか・」, 大岡信ことば館, 静岡
「所蔵作品展: MOMATコレクション」, 国立近代美術館, 東京
「The Keeper」, ニューミュージアム, ニューヨーク
「瀬戸内国際芸術祭2016」, 豊島, 香川
「Strange and Familiar: Britain as Revealed by International Photographers」,
マンチェスター・アート・ギャラリー(マンチェスター), バービカン・センター(ロンドン) - 2017
2015 「AN IMPRECISE SCIENCE」, Artspace, シドニー
「開館20周年記念 MOTコレクション特別企画: コレクション・ピカミング」, 東京都現代美術館, 東京
2014 「開館20周年記念 MOTコレクション特別企画: クロニクル1995-」, 東京都現代美術館, 東京
「ヨコハマトリエンナーレ2014: 華氏451の芸術: 世界の中心には忘却の海がある」,
新港ピア, 横浜
2013 「第55回ヴェネチア・ビエンナーレ: エンサイクロペディック・パラス」, ヴェネチア
「瀬戸内国際芸術祭 2013」, 女木島, 香川
「路上と観察をめぐる表現史-考現学以後」, 広島市現代美術館, 広島
2012 「ドクメンタ(13)」, カッセル
「Double Vision: Contemporary Art from Japan」, モスクワ市近代美術館(モスクワ),
ハイファ美術館群(ハイファ) - 2012
2010 「光州ビエンナーレ2010: 10,000 Lives」, 光州
「これも自分と認めざるをえない」, 21_21 DESIGN SIGHT, 東京
「瀬戸内国際芸術祭 2010」, 直島, 香川
2009 「I BELIEVE: 日本の現代美術」, 富山県立近代美術館, 富山
2006 「武満徹: Visions in Time」, 東京オペラシティアートギャラリー, 東京
2004 「再考: 近代日本の絵画 - 美意識の形成と展開・第2部」, 東京都現代美術館, 東京
2001 「スタンダード展」, 直島コンテンポラリーアートミュージアム, 香川
「大竹伸朗とディーター・ロート 見る・読む・触れるアーティスト・ブック」,
うらわ美術館ギャラリーD, 埼玉
1999 「日本ゼロ年」, 水戸芸術館現代美術ギャラリー, 茨城

TAKE NINAGAWA

- 「時代の体温 ART/DOMESTIC」, 世田谷美術館, 東京
- 1996 「パイプライン 宇和島⇄大阪 Puzzle Punks 大竹伸朗+ヤマタカ・アイ」,
ザ・ギンザ・アートスペース, 東京
- 1994 「600ソウル国際美術展」, 国立現代美術館, ソウル
「断面1979-1994 原美術館15周年記念展」, ハラ ミュージアム アーク, 群馬
「アウト・オブ・バウンズ 海景の中の現代美術展」,
ベネッセハウス直島コンテンポラリーアートミュージアム, 香川
- 1993 「第1回アジア・パシフィック現代美術トリエンナーレ」, クイーンズランド州立美術館, ブリスベン
- 1991 「キャビネット・オブ・サインズ」, マルモ・クンストフェライン(マルモ), ホワイトチャペル・ギャラリー(ロンドン),
テート・ギャラリー(リバプール)- 1992
- 1990 「Japan Art Today 現代日本美術の多様展」, レイキャビック市立美術館(レイキャビック),
ヘルシンキ市立美術館(ヘルシンキ), シャーロットテンボルグ美術展会場(コペンハーゲン),
ストックホルム文化会館(ストックホルム)- 1991
「幻想の力:日本の近・現代美術から」, 宮城県美術館, 宮城
「80年代の日本現代美術」, プレゲンツ・フェストシュピール(プレゲンツ), ウィーン近代美術館(ウィーン),
ボン・クンストフェライン(ボン), フランクフルト・クンストフェライン(フランクフルト)- 1991
「ニュー・ネセシティ 第1回タイン国際現代美術展」, ニューキャッスル
「作法の遊戯:90年春・美術の現在」, 水戸芸術館現代美術ギャラリー, 茨城
- 1989 「アゲインスト・ネイチャー:80年代の日本現代美術」, ヒューストン現代美術館(ヒューストン),
ニューヨーク大学グレイアートギャラリー(ニューヨーク), シンシナティ現代美術センター(シンシナティ),
シアトル美術館(シアトル), MITリスト視覚芸術センター・ボストン銀行 アート・ギャラリー(ボストン),
アクロン美術館(アクロン), サンフランシスコ近代美術館(サンフランシスコ)- 1991
- 1985 「Artists' Books: Japan 日本のアーティストが創った“本”の展覧会」,
フランクリン・ファーマス, ニューヨーク
- 1984 「第20回今日の作家'84展 [面]をめぐる表現の現在」, 横浜市民ギャラリー, 神奈川
- 1981 「ART POP Japan-Tokyo Today」, インスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アート(ICA), ロンドン
- 1979 「θ (シータ)」, ヴィレッジ・ギャラリー, 東京

主なライブ・パフォーマンス

- 1996 「デストロイ・オール・モンスターズ日本ツアー '96」, ラフォーレミュージアム原宿, 東京
-パズルパンクスの初ライブパフォーマンス, 遠隔操作エレキ・ギター「ダブ平」を初演奏
- 1995 ヤマタカ・アイとノイズユニット「パズルパンクス」結成, 初CDブック「パイプライン」(UCA)発表
- 1985 「ライブ・ワズ! 1985」, ラッセル・ミルズとのサウンド・ユニット「オンリー・コネクト」によるサウンド・
パフォーマンス, オックスフォード近代美術館, ロンドン
- 1980 「クルバ・カボル」, B・C・ギルバート, グレアム・ルイス, ラッセル・ミルズとのサウンド・
パフォーマンス, ノートルダム・ホール, ロンドン
- 1978 音響実験グループ「JUKE/19.」活動開始, 81年までにLP, EP5枚制作

主なパブリック・ワーク

- 2016 「針工場」, 公益財団法人福武財団, 豊島, 香川
- 2012 「女根／めこん」, 公益財団法人福武財団, 女木島, 香川
- 2009 「直島銭湯 ♥湯」, 公益財団法人福武財団, 直島, 香川
- 2006 「はいしゃ〈舌上夢／ボッコソ視〉」, 公益財団法人福武財団, 直島, 香川
- 1999 「北の空に浮かぶカタチ」, 札幌市生涯学習センター, 北海道
- 1990 「船首と穴」「切断された船首」「船尾と穴」, 株式会社ベネッセホールディングス, 直島, 香川

TAKE NINAGAWA

レジデンシー

- 2015 シンガポール・タイラー・プリント・インスティテュート(STPI), シンガポール
- 1995 アトランタ・オリンピック委員会(ACOG)及びオリンピック文化機関の招聘によりアトランタに滞在
- 1989 アメリカ・インフォメーション・エージェンシー(USIA)及びアーティストコロニー基金の招聘により米国に滞在

受賞

- 2014 芸術選奨文部科学大臣賞 美術部門

主なパブリックコレクション

- ニューヨーク近代美術館
- ミネアポリス美術館
- ダラス現代美術館
- ヴィクトリア & アルバート博物館
- M+
- 東京国立近代美術館
- 東京都現代美術館
- 世田谷美術館
- 富山県立近代美術館
- 愛媛県美術館
- 高知県立美術館
- 駒ヶ根高原美術館
- 佐久市立近代美術館
- 広島市現代美術館
- ふくやま美術館
- 福岡市美術館
- 新津市美術館
- 高松市美術館
- ベネッセアートサイト直島
- 彫刻の森美術館
- 東京オペラシティアートギャラリー
- 原美術館
- セゾン現代美術館
- 札幌市生涯学習総合センター
- CCGA現代グラフィックアートセンター
- 公益財団法人福武財団

TAKE NINAGAWA

主な出版物

- 2013 「ビ」 新潮社, 東京
- 2010 「NOTES 1985-1987」 ジェイ・ブイ・ディー, 東京
「直島銭湯 I♥湯」 青幻社, 東京
- 2008 「見えない音、聴こえない絵」 新潮社, 東京
- 2007 「大竹伸朗 全景」 大竹伸朗全景展実行委員会, 東京
「大竹伸朗展 - 路上のニュー宇宙」, 大竹伸朗展実行委員会, 福岡
- 2006 「ネオンと絵具箱」 月曜社, 東京
- 2005 「既にそこにあるもの」 筑摩書房, 東京
- 2004 「カスバの男 モロッコ旅日記」 集英社, 東京
「UK77」 月曜社, 東京
- 2002 「テレビン月日」 晶文社, 東京
「18」 青山出版社, 東京
- 1999 「ZYAPAIORAMA 日本景」 朝日新聞社, 東京
- 1997 「YMCB」 トランスアート, 東京
- 1993 「ジャリおじさん」 福音館書店, 東京
- 1991 「SO:大竹伸朗の仕事 1955-91」 UCA宇和島現代美術, 東京
- 1986 初画集「<倫敦／香港>1980」 用美社, 東京
- 1982 「PSYCHEDELIC MAGAZINE LTD. vol.1」 東京オペレーションセンター, 東京レジデンシー